

『循環とくらし』第8号では、2016年ならびに2017年の研究発表会市民展示・市民フォーラムの参加団体の活動をご紹介します。

第27回廃棄物資源循環学会研究発表会は、2016年9月27～29日、和歌山大学にて開催されました。市民展示では「生物多様性の4つの危機と3R」をテーマに、自然保護・生物多様性分野、ごみ・3R分野、温暖化防止分野で取り組む市民・団体等の方々が、活動内容を紹介され、27日の市民フォーラムにて、展示内容・活動内容を報告されました。ここに代表してNPO法人わかやま環境ネットワーク・木の国エコリレー推進協議会と和亀保護の会の2団体に活動内容をご紹介します。

第27回研究発表会

「町で使い、森に還す」新たなしくみ

NPO 法人わかやま環境ネットワーク 木の国エコリレー推進協議会・事務局 事務局長 白井 達也

毎日の買い物が、地球環境の保護につながる！「消費」と「森の育成」をどのようにしてつなげているのか。和歌山県内を中心に活動する「木の国エコリレー推進協議会」の取り組みを紹介します。

■和歌山県の森は、いま

和歌山県は別名「紀の国」といわれています。その昔は、雨が多く生い茂った森の様子から「木の国」と名付けられていたという説があります。現在、県全体の面積のうち76.5%が山や森に囲まれています。森林面積の95.2%にあたる民有林の約6割が、スギやヒノキといった針葉樹です（2017年和歌山県農林水産部発行資料より）。ヒノキといえば、かつては宮殿のための高級建材として最適、最高といわれ、現在でも家具や住宅用の建材として扱われています。人が手をかけてまっすぐに育つ木々たちは、材木として利用できるようになるまでに、親から子、そして孫の世代へと、とても長い時間と年月を必要とします。自然と人との関わりで生まれてくる

貴重な資源の一つですが、このしくみを支えている林業関係の現状は決して明るいものではありません。住宅建築の主流が木造から鉄筋に代わり、エネルギーの主役が薪から化石燃料に代わり、やがて木材の需要は減少、一方で増加する外国産木材輸入量の影響、それに伴う就労者の減少です。当然のことながら労働者一人がかかわれる森林面積には限りがあります。「植える⇒育てる⇒使う」という資源活用のサイクルは、二酸化炭素吸収という恩恵を受けます。これらを維持するためには、山の仕事と私たちの暮らしとの関係を構築し、応援できるしくみをつくることです。「木の国エコリレー推進協議会」は、自然環境の保護と二酸化炭素吸収源の活性化によって地球温暖化防止につながっていくことを目的として、2014年8月に設立されました。

■カーボン・オフセット その役割

私達の毎日の暮らしから排出される二酸化炭素の量は、一人あたり年間2,190 kg。その内訳は電気を筆頭にガソリン、ガスと

並んでいます（図1）。ここには、発電所や工場など大規模生産の現場から出てくるものも含まれています。生産現場では、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスを減らす義務がそれぞれに課せられていて、企業は効率の良い設備への更新や運用のしくみを工夫するなどの努力を続けています。カーボン・オフセットとは、これらの対策をした上で、どうしても減らすことができなかった排出量に対し、温室効果ガス削減の取り組みへ投資することで、未達成分を埋め合わせするという考え方や活動のことをいいます。このしくみは世界各国をはじめ、日本でも制度化されています。国内外できちんと取り引きできるように公正にカウントされた排出削減量を「オフセット・クレジット（以降クレジット）」として国が管理しています。

■「町で使い、森に還す」

クレジットは主に温室効果ガス排出量の多い企業が活用している一方で、削減義務のない中小の企業や個人には活用の機会がなく、ほとんど馴染みはありません。国では、このしくみへの理解と活用を目指し、個人消費される商品やサービスに対して、クレジットが流通できる事業を公募しました。クレジットを購入した企業や商店が、クレジットつき商品やサービスを販売。その売上の一部がクレジット創出元にリターン



図1 一人あたりの二酸化炭素排出量（出典）温室効果ガスインベントリオフィス

公募に手を上げました。また、できるだけわかりやすく伝えるよう「町で使い、森に還す」というキャッチコピーを掲げ、県内の企業や商店、そして商品を選択する消費者の皆様への理解と賛同を求めています。

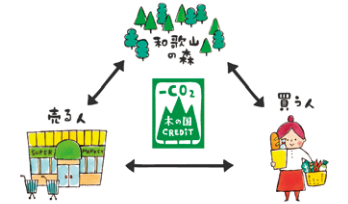


図2 「木の国クレジットの流れ」：木の国エコリレー推進協議会

■商品が売れると森が豊かになる

こうした活動を経て、現在は11団体・26商品が木の国クレジット商品やサービスとしてラインアップされています。たとえば「廃棄物焼却時の二酸化炭素を少なくするため、粉末状にしたスギなどの間伐材をプラスチックに練り込んだ樹脂で作った団扇やブロック」「無農薬野菜を使ったケーキやジェラートなどの野菜スイーツ」「果物の生産や加工が盛んな「和歌山らしさ」を象徴する、梅やみかんを使った商品」などです（写真1）。協力して下さった企業、商店は、まだ限られていますが、今後も理解を求め、賛同企業、商店を増やしていきたいと考えます。「買う」という消費行動に対する一つの提案として、つくる側、使う側の、双方へ働きかけ、輪を広げることが、持続可能な社会につながっていくと確信しています。



写真1 クレジット付き商品：木の国エコリレー

さらに詳しい情報は以下「木の国クレジット」のHPをご覧ください。kinoeco.net